【山田町】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするＩＣＴ環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）において、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。これを実現するにはＩＣＴは必要不可欠であり、これまでの実践とＩＣＴとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要となる。

「個別最適な学び」の実現により、児童生徒の１人１人の特性や学習進度に合わせた学習支援が可能になるとともに、児童生徒の興味や関心、キャリア形成の方向性等に合わせて、最適な学習方法が選べるようになり、より深い理解や学習意欲の向上につながる。その結果、自らの学びを自ら考え選択し、進める力（主体性）、周囲の指示を待つのではなく、自らの課題を発見し解決する力（自律性）、学習の進度や方法を状況に応じて調整する力（自己調整力）などの力を身に付けることを目指す。

また、「協働的な学び」の実現により、児童生徒同士が論理的に意見交換をすることで、多様な価値観に触れ、自分の考えを更に深められるようになるだけでなく、探究的な学習を通じ、他者と協働することで、社会性や協調性が養われる。その結果、相手の意見や立場を理解し共感する能力（共感力）、自らと異なる考えや価値観を尊重し、協働する力（多様性の理解）、自分の能力や価値を認め、自信を持つ力（自己肯定感）などの力をつけることを目指す。

２．ＧＩＧＡ第１期の総括

山田町では令和３年度に全町立学校の児童生徒分の端末の整備を完了した。端末についてはChromebookを採用し、活用を進めてきた。Ｇｏｏｇｌｅアカウントは教育委員会で一括管理している。また、二次元コードを読み取ることで端末にログインすることができるツールを採用することにより児童生徒が複雑なＩＤ、パスワードを入力することなくタブレットが使用できる環境を整備している。

端末整備に合わせて山田中学校において教育用ネットワーク環境整備を行った。小学校についてはＬＴＥ通信を採用していたが、山田小学校は移転開校に伴いＷｉ-Ｆｉによる通信に切り替えた。豊間根小学校については引き続きＬＴＥ通信を採用している。

ＩＣＴ活用の現状について町立学校に聞き取りをしたところ、学校間や教員間の格差も生じてきていることが分かった。学校間での活用状況の情報共有、意見交換を行い、教員の指導力の向上に努める必要がある。令和６年度は各小中学校に「ロイロノート」「＋日報」を導入した。特にも「ロイロノート」については各校で授業での活用が進んできている。今後は各校のニーズに応じて、情報活用能力を高めるための研修等も適宜行い、教員のＩＣＴ活用能力の一層の向上を目指し、子どもたち一人一人の学びの質を高めるため、授業での効果的な活用の研究をより一層進めていきたい。

３．１人１台端末の利活用方策

端末の更新に当たり各学校と情報共有を図りながら更新作業を進める予定である。岩手県教育委員会、岩手県ＧＩＧＡスクール運営支援センターからの助言を受けながら、児童生徒にとって充実した１人１台端末の環境を維持していく。

ＩＣＴの効果的な活用に向けて、以下の２点について重点的に取り組む。

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的の充実

本町では令和６年度よりＡＩデジタルドリルソフト「ｅライブラリアドバンス」を導入した。これにより児童生徒は１人１人の個性とペースに合わせた学習が可能になり、生徒の興味や得手不得手、学習スピードに合わせて、最適な教材や学習方法が選べるようになり、より深い理解や学習意欲の向上につながる。その結果、自らの学びを自ら考え選択し、進める力（主体性）、周囲の指示を待つのではなく、自らの課題を発見し解決する力（自律性）、学習の進度や方法を状況に応じて調整する力（自己調整力）などの力を身に付けることを目指したい。また、学習支援ツール「ロイロノート」を活用することで、児童生徒相互の思考を可視化し、すぐに共有が可能であることから、児童生徒同士が論理的に意見交換をすることで子どもたち１人１人の学びの質を高めることを目指す。更に、岩手日報の新聞記事が掲載されている「＋日報」を信頼性のある情報から調べ学習を行ったり、記事を要約したり効果的に活用することで、情報活用能力及び言語能力の育成を図りたい。

また、岩手県ＧＩＧＡスクール運営支援センターとの連携を密にし、教職員対象の研修会なども積極的に実施するなどしていきたい。

②誰一人取り残さない児童生徒の学びを保障

不登校児童生徒や特別な支援を要するこどもたちの実態に合わせて、１人１台端末の活用を進め、様々な状況におかれた児童生徒の学習機会を確保していく必要がある。１人１台端末の活用により、学ぶ機会の提供と質の向上を図り誰一人取り残さない児童生徒の学びを保障する。

４．３ｒｄＧＩＧＡにおける端末更新について

充実した１人１台端末の環境整備は、個別最適な学びと協働的な学びの実現、誰一人取り残さない児童生徒の学びの保障に重要であることから、２ndＧＩＧＡで整備する端末の更新が必要となる時期（５年後を予定）に、確実に更新し、児童生徒の学びに空白が生まれないようにしたい。